

地域農業を活性化させるために 都市住民との生態系保全活動を推進

とくげしゅうらくのうぎょうかっせいにかきょうぎかい
青森県：徳下集落農業活性化協議会

○団体の活動目的と経緯は？

【目的】

地域コミュニティと農業の活性化

【経緯】

地域農業の活性化のため、平成 13 年に町と農協と近隣企業、パルシステム東京等と協定を結び、有機栽培をやっていたと進めていた。行政と連携して、環境配慮施設設置後に生態系保全にも本格的に取り組むようになる。



ビオトープとモニュメント

○環境配慮施設と関連情報

【環境配慮施設】水路魚道、水田魚道、落差解消工事、ビオトープの整備

【活用した事業等】生物多様性保全手法確立調査

【保全対象生物】ナマズ、ドジョウ、その他水田の生物

○どんな生態系保全の取組をしているの？

1. 交流型生きものの観察会・環境学習

①パルシステム東京との交流活動（2回/年）

・生きものの観察の他、田植え等の農業体験も実施

②藤崎町立常盤小学校との交流活動（3回/年）

・3年生を対象に、生きものや環境配慮施設の勉強をした後に、生きものの調査を実施

2. 魚道のモニタリング・ビオトープの維持管理

①ナマズ等の遡上確認及び魚道等の保安全管理

・魚道を設置した田んぼにおいて、生きものと施設管理状況のモニタリングを実施

②ビオトープの維持管理

・主に役員（十数名）で点検及び整備を実施

3. ブランド農産物の開発

①「ナマズ米」の生産

・ナマズのいる田んぼで無農薬栽培をして、ナマズ米としてブランド化している

4. その他

①活動PRのためのナマズモニュメントの設置

・安心、安全の農産物のシンボルとして設置



活動前の説明風景



環境学習（勉強会）

○継続した活動でこんな効果が！！



交流型生きもの観察会

■都市部との交流の継続

・都市住民との生きもの観察会での交流をはじめ、5年以上が経ち、今後は施設の維持管理活動にも参加してもらうことを計画している。

■ブランド米による運営費の補充

・ビオトープ内の水田 200 m²に植え付けている『ナマズ米』は、周辺農家の協力により、面積の拡大が決定している。収益は運営費に還元している。

○課題・苦勞した点

■農産物ブランド化

・基本的な販売の知識をはじめ、分からないことが多くあった。

■住民や農家の理解を得ること

・生態系保全活動への理解・協力を得ることに苦勞した。



○工夫した点

■行政や生協などからの情報提供

・行政や生協などから、ブランド米を販売するための知識を得ている。さらに、パルシステム東京と交流しているため、販路拡大も考えている。

■活動内容の報告会の開催

・活動に参加していない農家や、非農家を含めて活動内容を説明し、活動内容や重要性について少しずつ理解してもらっている。

○活動の特徴！！

■パルシステム東京と交流

・東京の生協を通じた都市住民との交流によってイベントが定着したことで、活動の継続に繋がっている。さらに、現在、農産物のブランド化を進めており、今後の販路拡大も考えている。



○団体の概要について

- ・平成 23 年度に設立し、活動エリアは青森県南津軽郡藤崎町徳下地区内（旧常盤村辺り）となっている。
- ・延べ人数約 200 名の任意団体である。
- ・年間運営費は補助金 95%、会費 5%となっている。
- ・平成 27 年度の年間活動日数は、約 45 日である。

